

035

子どもの防災力を高めるためのドキュメンタリー映画制作・上映

取組主体

「いつか君の花明かりには」製作・上映委員会

従業員数

想定災害

実施地域

2人

全般

全国

・大切な人のために防災したいという気持ちになるような温かな映像を、ドキュメンタリー映画として制作・日本全国で上映する。子どもたちを中心に、防災に一步を踏み出すことへの動機付けに寄与する。

1 取組の特徴（はじめたきっかけ、狙い、効果、工夫した点、苦労した点）

「防災を温かく伝える映像を製作したい」

- ・「いつか君の花明かりには」製作・上映委員会は、防災啓発ドキュメンタリー映画「いつか君の花明かりには」の上映及び共同監督による講演を実施する。
- ・東日本大震災の復興支援活動で出会った同団体の山崎氏と小川氏の2名が、「防災を温かく伝える映像を製作したい」という一致した思いを基に製作委員会を結成し、2017年10月に企画・撮影を開始した。
- ・「いつか君の花明かりには」は、2017年10月に企画・撮影を開始し、2018年7月より全国公開された。主に公式サイトを通して上映依頼を受け、共同監督どちらかが上映とセットで講演を行っている。
- ・同団体の山崎氏は母親向け等の防災講演活動のほかに、東京都三鷹市を中心に活動する「防災団体やろうよ！こどもぼうさい」を設立し、児童・幼児向けの防災教育を実施している。また、「特定非営利活動法人 Mitaka みんなの防災」の設立に関わり、現在では理事として、三鷹市内における防災のつながりを広げることを目指している。小川氏は防災関連書籍の出版、コラム執筆、講演活動等を通して、防災の普及に努めている。
- ・「防災」が苦手な人が一步を踏み出すことは、とても難しい。また「防災の映像」を観ることも負担に感じることがある。そのため、映画の制作にあたっては、観て温かい気持ちになる映像、大切な人のために防災したいという気持ちになるような映像を作りたいという想いで、制作が進められた。具体的な防災対策について論じるのではなく、一步を踏み出す動機付けとなることを目指した。制作費の一部はクラウドファンディングを活用し、キャスティング、ロケーション、撮影等、協力・共感を得ながら作品を完成させた。
- ・「いつか君の花明かりには」は、主に、大災害を経験した後に防災の活動に取り組んでいる被災者の方のインタビューを中心としたドキュメンタリー映像である。温かいアプローチで防災を伝えるという点が特徴である。出演者の温かくも力強い言葉を紡ぎ、大切な人のために防災の一步を踏み出したいという気持ちになる映像となっている。
- ・子供たちに一番に観てもらいたいとの考えから、上映時間は約47分、授業の1コマで収まるように製作された。



「いつか君の花明かりには」公式サイト



上映会の様子

防災教育におけるドキュメンタリー映画の活用

- ・これまで20回ほどの「学校上映」を実施した。そのほとんどが上映+講演+授業という組み合わせで実施されている。多くの学校ではこれとは別にディスカッションや感想文を書く時間もあり、児童・生徒が感じたことを振り返る機会を作っている。
- ・2019年4月に上映+防災授業（各1時間）のプログラムで実施した東京都調布市立杉森小学校では、同校に通う生徒

国土強靱化

のほとんどが水害発生時に大きく浸水する地域に住んでいる。そのため、授業の中では多摩川が氾濫するとどんな被害があるのか、その時にどのように命を守れるか、映画から学んだようにみんなが大切な家族の命を守れるといったことを一緒に考えた。

2 取組の平時における利活用の状況や効果

- 映像内では、災害を経験していないが、地域の防災に大きな影響を与える活動を続けている徳島県の中学生たちが登場する。映像を見た同年代の子どもたちが、「自分にも何かできることがあるかもしれない」と考え、行動を促し長く心に残るような映像となっている。これまで、32 都道府県概算累計 18000 名以上を動員している。

3 現状の課題・今後の展開等

- 現状は、上映依頼を受けて実施する形となっているため、新型コロナウイルス蔓延後は、上映機会が減少している。どのように上映機会を増やすかが課題である。特に、学校での上映を行えるように取り組んでいきたいと考える。

4 周囲の声

- 防災に関するドキュメンタリー映画の上映や、命を守る方法を教えてください、ありがとうございます。災害が起こった時、どこの避難場所に行けばいいのかなどが分かりました。これから僕は災害に備えて常に準備しておきたいです。(学校上映会参加者・小学5年生児童)
- 私は今まで、東京では起こらないからいいやと思っていました。でも映画を見て、防災はとても身近で東京でも起こることを知りました。そして、自分事に思えるようになりました。ありがとうございました。(学校上映会参加者・小学5年生児童)
- 私は今まで「自分の町は大丈夫」「災害が起きても何とかなる」と心のどこかで思っていました。しかし、今回のドキュメンタリー映画を見て、このような考えを捨てるのが最初の防災対策なのだと感じました。大切な家族や友人の命を守るためにも、これからは時々でも考えながら過ごしていきたいです。(上映会参加者・10代/女性)
- 優しく温かい映画でした。防災のことを声高に語るのではなく、それぞれの想いを優しい表情で、時には明るい笑顔で語ってくれました。(上映会参加者・60代/女性)
- ずっと、大切に思う人の顔が思いうかびました。その人たちと、ずっと笑っていけるために、やれることをやっていたいなって思いました。あまり、こういったドキュメントにふれてこなかったのが、かなり覚悟して観にきましたが、思ったよりは肩の力を抜いて観ることが出来ました。(上映会参加者・30代/男性)
- ドキュメンタリー映画はあまり得意ではないのですが、集中して観ることのできた作品でした。それだけ一つ一つの映像や登場してくる人たちの言葉に心を動かされました。(上映会参加者・30代/男性)
- 防災に対する意識の甘さを考えさせられました。身内が西日本豪雨の際に被害を受けているのに何も考えずに生活していた自分に情けなく感じました。今後というより本日から、今できる事を考えて、実行していきたいと思う。(上映会参加者・30代/男性)

担当者の声

- 機会があればぜひ「いつか君の花明かりには」をご覧ください。また上映会の主催について興味を持っていただけたら、メールまたは公式サイトよりご相談ください。

問合せ先

「いつか君の花明かりには」製作・上映委員会
E-Mail : itsuhana.info@gmail.com

動画



サイト URL

